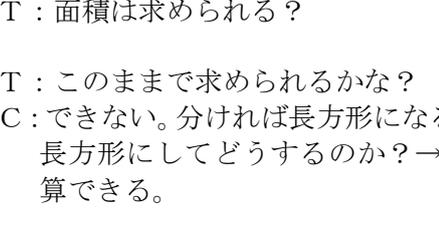
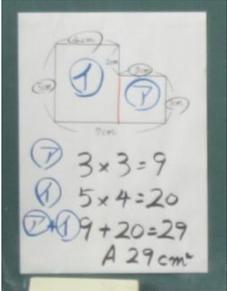
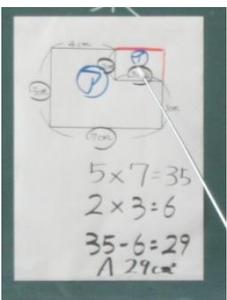
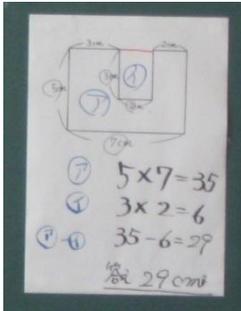
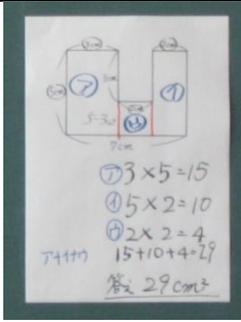


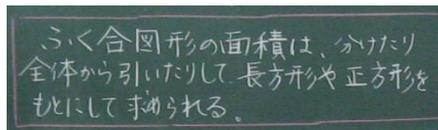
4年 広さを調べよう(5/10時)

学習活動	授業の様子	指導上の留意点(・) 支援(○) 評価(◇)
<p>1 本時の問題場面を知る。</p> <p>課題① 既習の長方形や正方形の面積の公式を掲示することで、長方形と複合図形の違いを視覚的に理解させたい。見通しを持って課題をつかませたい。</p> <p>2 本時の課題を知る。</p> <p>3 自力解決をする。</p>	 <p>T：面積は求められる？</p> <p>T：このままで求められるかな？ C：できない。分ければ長方形になる。 長方形にしてどうするのか？→計算できる。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図形を提示する。 ・ 図形の形を確認する。図形の形を「L字」・「U字」という名称で統一する。 ・ どうすれば面積が求められるか、作業の計画を伝える。 <ol style="list-style-type: none"> 1、考え方を図に書く。 2、計算して面積を求める。 3、図を説明する文・自分の考え方を簡単に言葉にする。
<p>課題② 複合図形に補助線をひくことで長方形や正方形として考えることのできる活動を通して、補助線をかくことよさに気づかせていきたい。</p> <p>4 合流し、各図形の面積の求め方を発表する。</p>	 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 必要な辺の長さを書きこませる。 ・ どう考えたか分かるように、図に補助線などを書かせる。 ○ どう考えればいいのか分からない児童には、マス目の入ったカードを渡す。 ○ 言葉で書けない児童には、自分の考え方を短く説明させ、「分ける」「全体から引く」などの言葉を導き、書かせる。 ◇ 複合図形の面積を、長方形や正方形に分割するなどして、求め方をくふうしている。(考 ノート、観察)
 	 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 複合図形の面積を求めることができる。(表 ノート、観察) ・ L字の図形と式を提示し、考え方と式を発表させる。発表後、U字グループの児童に考え方を説明させ、補助線をひかせる。 ・ 「ここ」だけではよくわからないので、「ア」と「イ」というように区別できるようにする。 <p>課題③ 式を読むだけの発表をする児童に対して、どの図形の面積を求めているのか分かるように、図に記号を書いて説明する方法を身に付けさせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じように発表させる。



T: 求め方で似ている考え方はありますか。

C: 同じ形になっている。→長方形全体から引いてる。分けて考えている。



T: 全体から引く方法がだめな理由は

C: 2回引くから、大変になる。

- U字の図形と式を提示し、考え方と式を発表させる。発表後、L字グループの児童に考え方を説明させ、補助線をひかせる。

課題④

考えを伝え合う活動を通して、それぞれの考え方の共通点や相違点を明らかにして、それぞれの考え方の良さに気付かせたい。

課題⑤

自分が思いつかなかった考え方も、発表の場で学ぶことができるようにしたい。自分の考え方以外の考え方も式や図から理解できるようにしていきたい。

○複合図形の言葉の説明をする。

- 考え方を発表したら、「分ける」「全体から引く」とキーワードをつける。
- どの考え方も合っていることや、どの方法でも面積が同じであることを確認する。
- 発表した図形を移動させて考え方を整理する。
- 整理した場所に「長方形」や「正方形」とキーワードをつける。

○書き出しの言葉を書く。

- 長方形をもとにして考えれば面積が求められた事を確認する。
- どんな形でも、既習の考え方を使えば、面積が求められることに気付かせる。

- 形に合わせて、求め方を変えると、計算しやすいことに気付かせる。
- 児童に見せる。

- どんなやり方が適しているか考えさせる。

は 早く
か 簡単
せ 正確に

- 分けるやり方と、全体からひくやり方は、図形によって、やりやすい考え方をを使うといいということをおさえる。

5 複合図形の面積の求め方を整理する。

7 本時のまとめをする。

8 他の図形の場合を考える。

